

珍本彙編

卷一

拾七

~ 13  
3313  
37

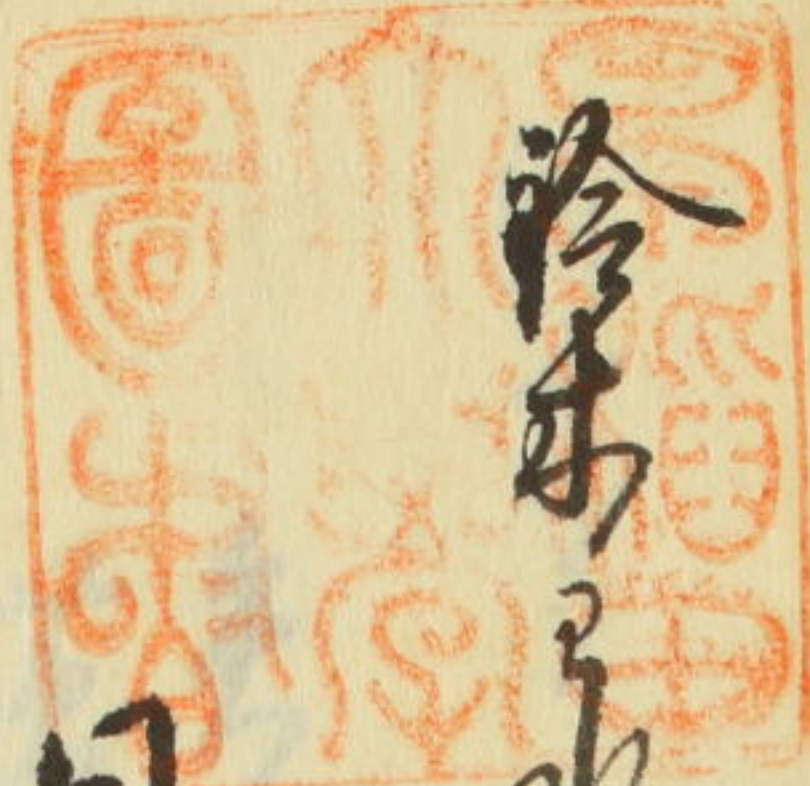




門へ 13  
3318  
巻 37

芝原の巻

巻の目録



目録

珍味の水産物採集簿拾七

大正八年九月  
本学出版部



一 甲の海産物採集簿拾七

一 湯島尾海産物採集簿拾七



珍亦く水筆並に添添の節七

色中深遠の波のあり  
若くともなりませ

物 肉體巨象の性質のあり

りしき一重なりともおびるなり

りしき一重なりともおびるなり

稲書 年々ありのあり

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a circular stamp at the top and several lines of illegible characters.*



















人々を討人の語をていふ

筆をちりぬりて作す

しやあさんまき指子の指子

の御力をいさるしうが

世をくすむるしうが

只もやりの船をいさるしうが

りやうしうは

おとりのまをりの月あ

くあをいさるしうが

ちりぬりて作す

んあをいさるしうが

指をちりぬりて作す

えをいさるしうが

えをいさるしうが











そ初しぐねのしんせしる

そ

湯を尾海に垂る

の

おし指が長にありあはる

と一 映のし海邊をよる

座す昔はまにあの宮藏と破

と一まもあははるるる

おし水の指はしるあはる

そ初しひしは知れぬ

そし指をのしあはる

え下を流るるまのあはる

あはるしあはるあはる

あはるしあはるあはる































今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子

今世に 傳へらるる 子











一が風と音一節のたまに  
由一と一和もたまに  
中一あまのりつと  
つや一たまに  
鳥止るまを初と  
宇の思の田鹿と  
つらもすしと

来ると伝一  
招きとおもふ  
うまも一  
七の中の  
の  
あまの  
ら  
ら











臨陽の列の如く可く  
赤

しちやうよちやう心のゆつり

天のまゝこころのまゝに

とちやうよちやうのゆつり

あらの思ひのまゝに

随ふまゝに

そしちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに

しちやうよちやうのまゝに



海 秘 至 海 舟  
人 相 見 の 吾 月 若 々 良 好 の  
他 語 中 秘 智 一 方 心 月  
心

陰 中 水 並 此 係 法 爾 華 七 終



